和歌山県 追補

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 内藤, 麻子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00053519

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

30. 和歌山県　追補

内藤麻子（〒642-0001　海南市船尾370-1　和歌山県立自然博物館　naito_a0001@pref.wakayama.lg.jp）

(A)　植物誌

和歌山県立自然博物館収蔵標本に基づいた和歌山県植物誌の発行が期待されているが，具体的な調査計画は定まっていない。県新産植物や目録等のフロラに関する報告は『和歌山県立自然博物館館報』（和歌山県立自然博物館発行）『南紀生物』（南紀生物同好会発行）等に掲載されている。近年発行された全県的な資料としては『小川植物コレクション標本目録』（和歌山県立自然博物館　2004），『和歌山県絶滅危惧植物目録（1）シダ植物門』（山本ほか2010）がある。

(B)　研究機関

国立大学法人の研究施設として和歌山大学教育学部（和歌山市）に高須英樹教授（植物生態学）の研究室がある他，京都大学フィールド科学教育研究センター森林ステーション和歌山研究林（有田郡有田川町），里域ステーション紀伊大島実験所（東牟婁郡串本町），北海道大学和歌山研究林（東牟婁郡古座川町）があり，地域資源を活かした特色ある研究活動が行われている。

和歌山県立自然博物館では1982年の開館以来，紀伊半島の自然史の記録をテーマにした資料収集活動を続けている。2010年より和歌山県立自然博物館友の会の分科会として和歌山植物研究会が発足した。既存の県内研究団体との連携によって植物相解明に向けたより活発な調査研究活動が期待される。

(C)　標本庫

和歌山県立自然博物館植物標本庫は2004年7月に国際略号WMNHとしてIndex Herbariorumへの登録が完了した。床面積43.7平方メートルと収容能力に大きな制約があり，寄贈標本の新規受贈が課題である。また，沿岸域に立地することから，東海・東南海・南海大地震発生時における津波対策等，将来の存続がかかった大きな課題を抱えている。近年，県内研究団体等で活躍された個人による採集品の寄贈が相次ぎ，植物誌編纂のための基礎資料として標本整理及びデータベース化作業を進めている。

(D)　レッドデータブック

平成21年度より3年間，和歌山県環境政策局環境生活総務課自然環境室により和歌山県レッドデータブック改訂事業が実施された。専門委員による標本調査と現地調査の結果を基に『保全上重要なわかやまの自然―和歌山県レッドデータブック―』（平成13年3月発行）の大幅な見直しを行った。対象となる分類群は前回と同様，維管束植物分野，植物群落分野となっている。事業の成果は冊子として発行されるほか（図1），和歌山県ホームページ（http://www.pref.wakayama.lg.jp/）から閲覧できる。

図　保全上重要なわかやまの自然
―改訂版　和歌山県レッドデータブック―

(E)　植物群落

県内の植物群落を網羅した資料として『保全上重要なわかやまの自然―和歌山県レッドデータブック―』（平成13年3月発行）がある。初版の発行以来，公共工事の実施に伴う植物群落破壊，無断伐採等の事件が相次いで報じられ，開発担当者側から植物群落の正確な位置やアクセス方法に関する事前問い合わせが急増した。今回の和歌山県レッドデータブック改訂事業では，和歌山県計画型地理情報システムを利用し，植物群落に関する地理空間情報の整備を目的とした見直し作業を行った。その成果は『保全上重要なわかやまの自然―和歌山県レッドデータブック―改訂版』（平成24年3月発行）に和歌山県における植生と植物群落の概要としてまとめられている。また，改訂事業の副次的成果物として，和歌山県地理情報システムを用いた植物群落に関する地理空間情報の庁内共有が実現し，Web-GISによる閲覧が可能となっている（庁内向け公開）。関連部署が保有する地図情報と植物群落の情報をGISの画面上で重ね合わせて表示することにより，県土整備や森林整備といった各種開発行為における環境配慮の必要性を事前に検討することができる。